



スマイル天神 No.37



令和4年12月23日
天神小学校
校長 木下 和弥

思いやりのある子・進んで学ぶ子・明るくたくましい子

冬休みの思い出…

今から50年近く前。自分自身が小学生の頃はどのような冬休みを過ごしていただろうかと、先日、思い出しました。

クリスマスは、本当に、本当に楽しみにしていました。自分が欲しいと思っていた、普段では手に入れることができない物を、サンタさんにお願いして、朝起きたら枕元にある…。夜は、本当に届けてもらえるかどうか、不安と期待で、なかなか寝付けなかったことを覚えています。

おそらく、我が家だけではなく、周りもそうでしたが、外出することは年に何回。その数少ない日がクリスマスでした。父がスーツを着て、母がよそ行きの服を着て、今の五番街近くのレストランで、ハンバーグステーキを食べるのが、何よりの楽しみであり、何よりの贅沢でした。アニメ「サザエさん」の食卓が、私の子ども時代の一般的な食事でした。家族全員で一つの食卓で皆で食べる。ごはん・味噌汁・焼き魚・漬物。それで十分でしたし、それが普通でした。そう考えると、今の日本は生活水準、一般的な人が考える一般的な生活のレベルがすごく上がっているように思います。

さて、クリスマスの次は、大みそか。小学3年生ぐらいまでは、水戸黄門の最初の音楽を聞きながら、夜8時に寝ていました。ところが、大みそかの日だけは遅くまで起きていていいという、嬉しいルールがあり、これも本当にわくわくでした。ちなみに、小学4年生の時に、水谷豊主演の「熱中時代」というドラマがあっていて、クラスの友達皆が見ていて話についていけず、そのことに気付いた母が父に相談して、この曜日だけ夜9時まで起きていてよいというルールになったことも覚えています。

大みそかと言えば、紅白歌合戦。家族皆でこたつに入ってみかんを食べながらどこまで起きていられるか…というの懐かしい思い出です。

お正月は、やはりお年玉をもらうこと。そして、朝から八幡神社にお参りに行って何か一つだけ買ってもらえることも嬉しかったひと時です。次の1月2日は、何と言っても初売り。朝早起きして、10歳年上の兄がいつも街に連れて行ってくれたのも覚えています。街に行くこともめったになかったので、大興奮でした。日常は質素だったからこそ、このような非日常な時がとても心に残っているのだと思います。

ここで思い出すことは、いつもそばに家族がいたということです。冬休みの思い出。それは、家族との時間を大切にすることだと思います。思い出は、お金では買えません。高級なものでなくても、物を買ってあげなくても、豪華な物を食べなくても、家族皆で、会話をし、笑って、同じ時間を過ごす冬休みであってほしいと思っています。



天神小一徳運動 「気持ちのいいあいさつ」 ～あじさいあいさつを～

～あいての目を見て ①ぶんから ②わやかな声で ③いつでも・どこでも・誰にでも